

かつて、膠原病でみられる腸病変の X 線像と言え、バリウムの通過遅延、蠕動の低下、狭窄などといった大まかな所見であり、その像も充盈像、粘膜像や不完全な二重造影像が主体であった。それが今回の特集号では二重造影法で検討され、直接所見と間接所見の区別もなされてきている。膠原病の腸病変も、二重造影法によってようやく“確かな所見”として登場してきて、微小病変、X 線像の経過など、控えめだが新知見に富む特集となった。この特集を支えた八尾グループの業績には感服せざるを得ない。

ところで、この編集後記を書くため、すべての原稿を読み終えた日に、青崎らの症例「multiple lymphomatous polyposis 様の消化器浸潤を呈し

た成人 T 細胞白血病の 1 例」と全く類似の注腸所見を示した患者の検査を担当し、ATL と診断しえた。カルテを見ると、はたして末梢血で白血球が 18,200、腫瘍細胞が 95% で ATL 抗体も陽性であった。これだから、臨床にすぐ役立つ形態診断学はやめられない。

さて元に戻るが、読者の中には、主題論文、主題症例で示された X 線像や内視鏡像、切除標本をみて、類似した症例をかつて経験したこと、また現在、実際の診療の場で、そのような症例に違いないと確信される先生方も少なからずおられるに違いない。本特集号が真に臨床の場で役立つことを祈念している。

胃と腸

12 月号 (第 26 巻・第 12 号) 予 告

発売予定 12 月 25 日
定 価 1,957 円(税込)

主題／集検発見胃癌の特徴

序 説	早期胃がん検診協会	白 壁 彦 夫
主 題	間接 X 線集検で発見された胃癌の特徴	藤田保衛大・第 2 病院 芳野 純治・他
	間接 X 線胃集検における偽陰性例の特徴	宮城県対がん協会検診センター 菅原 伸之・他
	逐年検診からみた胃集検発見胃癌の特徴	九大・放 本岡 慎・他
主 題 研 究	健康人中から発見された胃癌—	
	有病率からみた間接集検の評価	東京都がん検診センター 志賀 俊明・他
今月の症例	IIC+III 型早期胃癌の 1 例	東京都がん検診センター 蓮尾 友伸・他
初心者講座	胃 X 線検査のポイント—私の精密検査法	
	11. 進行癌	加来幸生・中野 浩・牛尾恭輔

胃 と 腸 (第 26 巻 第 11 号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

☎ 社内案内 (03) 3817-5600

本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1991 年 11 月 25 日発行(毎月 25 日発行)

1 部定価 1,957 円(本体 1,900 円)(送料 81 円)

年ぎめ予約購読料 22,320 円(本体 21,670 円)

(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 東京 7-96693 番

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1991, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• 無断で複写・複製・転載すると、著作権の侵害となることがありますので御注意下さい。

(担当) 渡邊・窪田・江口・長谷川